

第11回苫小牧市行政改革推進審議会 議事録	
日 時	令和2年10月14日（水）15時00分～15時45分
場 所	市役所2階入札室
出席委員	石森委員、大橋委員、小林委員、小山委員、佐藤委員、滝本委員、中村委員、藤田委員、柳委員、山上委員 (敬称略、五十音順)
事務局	行政監理室
会議次第	<ul style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 議題 行政創革プランの評価方法について 4 その他 5 閉会

発言者	発言内容
事務局	<p>定刻となりましたので、ただ今から、第11回苫小牧市行政改革推進審議会を開催いたします。</p> <p>それでは、審議会の開催にあたり、石森会長より御挨拶をお願いいたします。</p>
石森会長	<p>皆様、本日は、お忙しい中、審議会に出席いただき、感謝申し上げます。</p> <p>本日は、本年度から取組を開始した「行政創革プラン」の評価方法について、議題としています。</p> <p>前プランの評価方法については、様々な御意見があったところではありますが、委員の皆様からアイデアをいただき、より良い評価方法の仕組みができればと考えています。</p> <p>委員の皆様には、本日も忌憚のない御意見をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これからの議事進行につきましては、石森会長にお願いしたいと思います。</p> <p>石森会長、よろしくお願いいたします。</p>
石森会長	<p>それでは、議題の『行政創革プランの評価方法について』に入りたいと思います。</p> <p>まず、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>委員の皆様には、プランの評価方法に関する資料を事前にメール又は郵送で送付させていただき、同じ資料を本日お配りしております。</p> <p>資料を送付した際に御持参をお願いしております、行政創革プランの冊子につきまして、本日、お持ちでない方はいらっしゃるでしょうか。</p> <p>はじめに、評価の説明の前に、改めまして、本プランの取組の構成について、簡単に説明させていただきます。</p> <p>資料11の1をお願いいたします。</p> <p>本プランでは7つのテーマを設定しており、テーマに関連する21の取組項目と、それを実践するための70の実践項目で構成されています。</p> <p>冊子の5ページをお願いいたします。</p> <p>7つのテーマについて記載しています。</p> <p>一つ目は「健全な財政運営」、二つ目は「市民サービスの進化」、三つ目は「協働の推進」、四つ目は「公共施設のマネジメント」、五つ目は「民間活力の活用」、そして「ICTの活用」と「職員の人材育成と「働き方改革」・簡素で効率的な組織づくり」になります。</p> <p>冊子の7ページをお願いいたします。</p> <p>テーマに関連する21の取組項目でございます。</p> <p>一つ目の「新たな財源確保に向けた取組」から、21個目の「簡素で効率的な組織づくり」の取組があります。</p>

冊子の11ページをお願いいたします。

21の取組項目の具体的な内容になります。このページには、取組項目に関するテーマと取組を実践するための実践項目が記載されています。

なお、資料11の1、1の(1)の表は、その内容を一覧にしたものでございます。

それぞれの実践項目は、複数のテーマに関連づけられており、審議会では担当課での実践項目の自己評価を基本として、各委員が取組項目の評価を行うことで、最終的にはテーマごと取組の効果や有効性の検証を行います。

続いて、評価について説明いたします。

資料11の1の2番以降になります。

本プランについては、令和2年度から令和6年度までの5年間を取組期間としております。

その中で、令和2年度の進捗状況を翌年度の令和3年度の初めに集約し、その評価を行います。順次、毎年度、進捗状況の評価を行います。

また、中間年となる令和4年度中と、5年間の取組期間終了後に、取組の有効性の評価を行います。

なお、この流れについては、前回のNEXT STAGEと同様に行いたいと考えております。

次に、毎年度の進捗状況に対する評価について説明いたします。

毎年度の進捗状況に対する評価は、担当課が作成する進捗状況シート等を参考に、意見シートに「取組項目」ごとに特筆すべき内容を意見することを考えております。

資料11の2をお願いいたします。

こちらが、毎年度、担当課が作成する進捗状況シートになります。

シートの構成や各評価項目等は右側のとおりで、進捗状況や効果が一目でわかるように、可能な限り5年間分の取組をひとつのシートで表現します。

このシートは、実践項目ベースで担当が作成し、全部で70枚のシートが集まることとなります。

このシートには載っていませんが、取組による効果額は別途集約し、お示ししたいと考えております。

資料11の3をお願いいたします。

このシートは、実践項目ごとの担当課の自己評価を21の取組項目ごとに平均化したものになっており、取組項目ごとに意見欄を設けております。

審議会では毎年度行う進捗状況の評価については、この意見シートの内容と、資料11の2の進捗状況シート等を見ていただいて、特に意見がある項目について、意見をお願いし、審議会として意見書として取りまとめ、その後の取組につなげていきたいと考えております。

重ねて申し上げますが、必ず、全てに意見をお願いするものではなく、特筆

すべき点という観点で、意見ををお願いしたいと考えております。

次に、中間年及び最終年の取組の有効性の評価について、でございます。

資料11の1の右側の4番をお願いいたします。

直近では、前回のプラン、NEXT STAGEの取組について評価いただいたところではありますが、今回のプランにおいても、中間年と最終年に有効性の評価を行いたいと考えております。

前回のプランでは、7つのテーマについて、「取組姿勢」、「市民サービス」、「財政効果」の3つの指標で評価いただきました。

今回は、21の取組項目ごとに自己評価とそれを取りまとめた平均の表をお示しし、それについて5段階で評価いただき、特筆すべき内容を意見いただくようになっております。

資料11の1の4(2)は、委員の皆様にご覧いただき評価シートのイメージになります。

評価の基準についてですが、あくまでも 総合評価の5段階評価で、「非常に評価できる」の「5」から、「課題あり」の「1」までの範囲で評価いただきたいと思います。

資料11の4をお願いいたします。

委員の皆様からいただいた評価は、21の取組項目ごとに平均化し、取組の有効性について評価を行います。

また、冒頭にお話ししましたとおり、取組項目は7つのテーマにひもづいていることから、テーマごとにも集約を行い、その効果について、検証、考察をしたいと考えております。

最後に資料11の6をお願いいたします。

委員の皆様にご覧いただき資料を事前送付にあわせて質問票を送付しており、実際にいただいた質問に対する回答でございます。

一つ目は「行政コスト」の正確な検証の部分ですが、前プランに引き続き、本プランでも目標効果額等の財政効果に関する指標は設けておりません。しかしながら、取組の有効性を検証する上での判断資料として、担当課による進捗状況の確認の際に、参考として「財政効果額」と「要した費用」について報告いただくことを考えております。資料の最後に担当課が作成する進捗状況シートの案を配付しておりますが、裏面に財政効果額と要した費用の欄を設けております。

コスト面についての質問もいただきましたが、今回は、取組項目ごとにコスト面も含めた「総合評価」を行っていただくことで、取組項目にひもづいたテーマに対する検証に結びつけたいと考えております。

総合評価とあわせて、有効性の評価時には、コスト面も含め、取組について意見をいただくことを考えております。

また、進捗度評価についての質問をいただきました。

プランにある取組の中には、制度や仕組の立案を行い、その後、運用方法に

	<p>ついて考えていくものや、取組を行うにあたり毎年度予算が関係するもの等、プラン策定の段階では具体的な工程について示すことができないものがありました。</p> <p>そのため、担当課が作成する進捗状況シートの中段に「取組内容欄」を設け、年度ごとの工程・予定の詳細と取組結果について毎年度記載し、その資料を根拠として、担当課が進捗度の自己評価を行うことを想定しております。</p> <p>最後に、実践項目に対する自己評価項目の連携度について、作業の性格上、他部署との関りが薄く、概ね一つの部署で完結してしまうような項目は、連携度の点数が低くなる恐れはないのか、との御質問をいただいております。</p> <p>委員御指摘のとおり、他部署や関係会社等との連携を必要とせず、単独の部署で完結するような実践項目も想定されるところです。</p> <p>そのような場合は、一律「2点」として点数を計上し、総合評価を行いたいと考えております。</p> <p>以上が、評価方法の案についての説明となります。</p> <p>本日の審議会では、この内容について、修正すべき点や追加すべき点などについて御議論いただき、内容をかためてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。</p>
石森会長	<p>ただ今、事務局から御説明がありましたけれども、やっぱりやってみないとなかなか分からないかもしれませんね。</p> <p>一つの流れとして、まず、担当課が自己チェックをする。その自己チェックをしたものを、我々が判定するというのが前提でしょうか。</p> <p>実際、私達が全ての作業を厳密にやっていると大変な作業になるので、説明いただいたように、それぞれの部署が自分で判定したものを我々が本当にそうなのかと、違った観点から意見していき、皆さんで議論して、全体を取りまとめていくというやり方ということですね。</p> <p>また、今回コロナの関係で色々な施策があり、財政支出が非常に大きくなっているのではないかとということと、項目の中にもありますが、市立病院の状況が非常に厳しくなってくるのではないかと等、色々なそういうアフターコロナの状況もよく見て、財政支出にどのような影響があるのかということも踏まえながらチェックしていくことが必要です。</p> <p>そういった意味では、それらの数字も示していただいて、それもあわせて評価をしていく必要があると思います。</p> <p>そういったところもあわせながら、フレキシブルにやっていく必要があるのかなど、私のほうでは感想を持ちましたけれども、皆さんいかがでしょうか。</p> <p>どなたか御意見ございますでしょうか。</p>
藤田委員	<p>評価方法についてですが、委員として評価する部分は、自己評価の全体の部分を見て、一つの評価だけ5段階でつければ良いということになりますか。</p>
事務局	<p>そうですね。</p> <p>以前のプランであるNEXT STAGEの時には、工程に対しての担当課に</p>

	<p>よる3段階の進捗度の自己評価しかない中で、中身を委員の皆様には評価していただきましたが、委員の皆様からは、取組の有効性をどのように評価すればいいのかという御意見もいただいております。</p> <p>今回、前回のプランと大きく変わった部分は、担当課の自己評価を委員の皆様にある程度分かりやすく見せたいという部分であり、それを見ていただいた上で、取組に対して評価もしくは意見を願うような評価方法に変えました。</p>
藤田委員	こちらでは、総合評価だけ行うことで良いということですね。
事務局	担当課での自己評価を踏まえて、委員の皆様の観点から総合評価として何点というような形の採点をしていただき、意見をいただくような方法になります。
藤田委員	担当課による自己評価は、実際の担当が自己評価したものを、確認や修正もなく私達に報告されるということになるのでしょうか。
事務局	<p>プランの自己評価は、担当レベルで報告いただくのではなく、部署としての決定事項として報告いただきます。</p> <p>私達がそれを取りまとめた際に、明らかに内容が違う等の部分があれば、担当課に確認や指摘をさせていただいた上で委員の皆様にお示しします。</p>
石森会長	<p>やはり難しいのは、市民サービスの向上とコストに対する考え方だと思います。担当課によっては、サービスに重きを置いているとコストが増えているとか、コストを減らしながらサービスもできるのではないかとかという評価を我々が別の視点から申し上げることになります。サービスを重要視していくとコストはかさむ恐れがあると思います。</p> <p>基本は行革の視点で、財政の支出を与えられたものでどうしていくか、あるいは財政が厳しくなれば、例えば、コロナの支出を埋めるために復興税みたいなものが国から出てきたときに、本当にそれでいいかどうかとかですね、色々な議論が出てくるかと思いますが、総合的に幅広い議論をこの審議会としてできればいいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>今回のコロナの影響というのが、まだはっきりと見えない部分があります。</p> <p>恐らく、税収の面では影響は出てくると思いますし、税収が減った分を補てんする仕組みである国の地方交付税等の反映状況というところも見えない部分ではあります。</p> <p>これまでも、審議会ですべて定期的に本市の財政状況の説明をさせていただいておりますが、年度末にかけて財政状況がある程度見えた段階で、説明の場面も設けさせていただければと考えております。</p>
石森会長	国の新しい体制、デジタル庁の関係も話題になっており、本プランにも影響が出てきそうですね。
事務局	現段階では国の施策の様子がわかりませんので、今回の審議会でお話しすることはできませんが、行政創革プランもそのような新しい施策に合わせて中間年の見直し等で反映させていくような形になるのではないかと考えております。
石森会長	何か御意見はございますでしょうか。

中村委員	<p>自己評価の中の、この取組姿勢という項目に対して、私なりに違和感を少し感じています。</p> <p>どの担当課も取り組もうという前向きな気持ちで取組項目を検討し、挙げていると思うのですが、ということであれば、この取組姿勢という項目自体を自己評価欄に取り上げる必要性がそもそもあるのかと思います。</p> <p>大前提の話なのかな、という気がします。</p>
事務局	<p>そうですね、自己評価の評価項目については、事務局で4項目の評価基準を設けさせていただいたのですが、そのような御意見であれば、ここの自己評価の評価項目については少し見直す余地があると思いますが、いかがでしょうか。</p>
中村委員	<p>取組自体、5年間のものであり、更には1年の間でも状況が変わってくると思います。当初、計画で取り組もうと考えただけけれども、実は途中の段階で疑問点や新しい視点が出てきた等の場合には、その内容を挙げていくことができればいいのではないかと思います、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>今回の進捗状況のシートの中には、取組内容で実際の予定よりも変わったことがあれば記載することができるような仕組みになっております。</p> <p>今後、取組自体が具体的により良いものとなるために担当課で計画するものがあれば、この部分で表現いただくような形で考えております。</p>
石森会長	<p>私達としては、事務局が各部署にどのような姿勢で行っているのかということを知りたいと思っています。聞いて示していただければ、参考になるのかなという感じもします。</p> <p>取組姿勢という項目は、さきほど中村委員が前提とおっしゃいましたが、前提かもしれないですね。</p>
事務局	<p>確かに、前向きな形でプランを挙げさせていただいておりますので、姿勢としてはもう高いに決まっているというところもあると思います。</p> <p>そこを自己評価という形ではなく、実際の中身を見て、私達事務局がどの程度かというような形で採点するのも一つの方法なのかなというところはありますけれども、この部分は持ち帰って検討させていただければと思います。</p>
石森会長	<p>そのほかございませんでしょうか。</p>
山上委員	<p>例えば、色々なサービスに関して、地域では様々な観点で見ている方もいると思われますので、市民の皆様方の意見を集約したものを一つの参考にできれば非常にありがたいです。</p> <p>そのような情報やデータ等で、市で把握しているものがあれば、評価もより具体的なものになると思いますので、工夫していただければありがたいと思います。</p>
事務局	<p>各施策に対する市民向けのアンケート等の情報も、示せる部分は示させていただければと思いますが、その部分も今後工夫していければと考えています。</p>
石森会長	<p>そのほかございませんでしょうか。</p>
大橋委員	<p>進捗状況シートを取組内容の部分ですが、年度を重ねるごとに、以前の予定とは異なる取組が行われていくケースも想定されると思いますので、以前との違いが分かるように明記していただきたいと思っています。</p>

事務局	はい、わかりました。
石森会長	その他、ございますでしょうか。
藤田委員	<p>取組の効果の部分でも、例えば、成果として出たもの、当初求めていたものその他に得られた知見であるとか、そういったものは結構重要だと思うんです。</p> <p>また、当初の目的のために取組を行ったが、二次的な新たな発見があつて、もっと大きな効果を得られる可能性を見つけられた等という拡張性というものも大切であると思います。</p> <p>進捗スピード、得られた効果、熱意や創造的な部分というのはもちろん必要なものだと思いますが、拡張性についても、ちょっと一考していただければ、大変ありがたいと思います。</p>
事務局	<p>自己評価の部分については、事務局で検討いたします。次回、修正したものを改めてお示しさせていただきたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>
石森会長	<p>その他、ございますでしょうか。</p> <p>無ければ、ただ今、御指摘のあった点について、事務局で検討、修正を加えていただきまして、お示しいただけるようお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、最後に、全体を通して何かございますでしょうか。</p> <p>無ければ、事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>今回は、12月頃に開催を予定しております。本日の御意見等を踏まえ修正を行った、「行政創革プランの評価方法」について最終的な調整を行いたいと考えています。</p> <p>なお、日程等の詳細につきましては、改めて御案内させていただきますので、よろしく願いいたします。</p>
石森会長	それでは、本日の審議会を終了いたします。ありがとうございました。